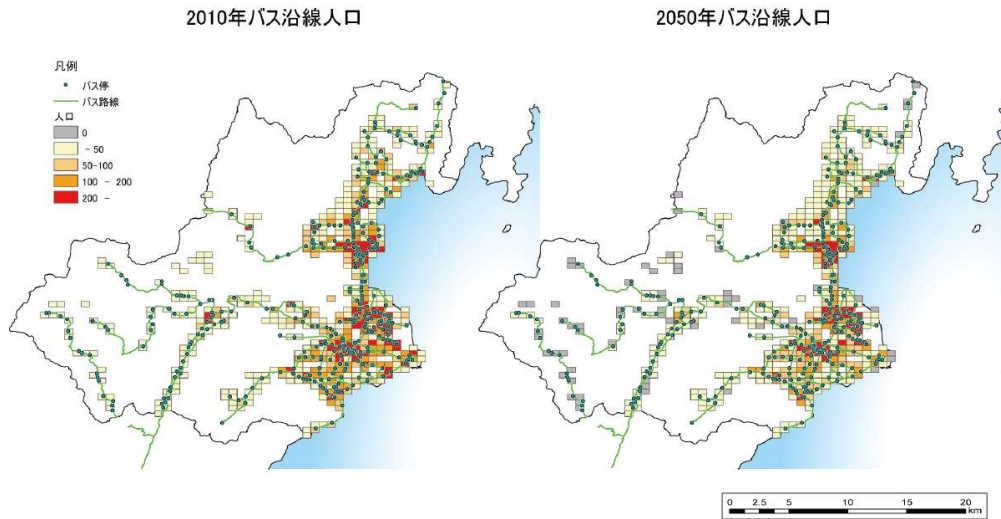
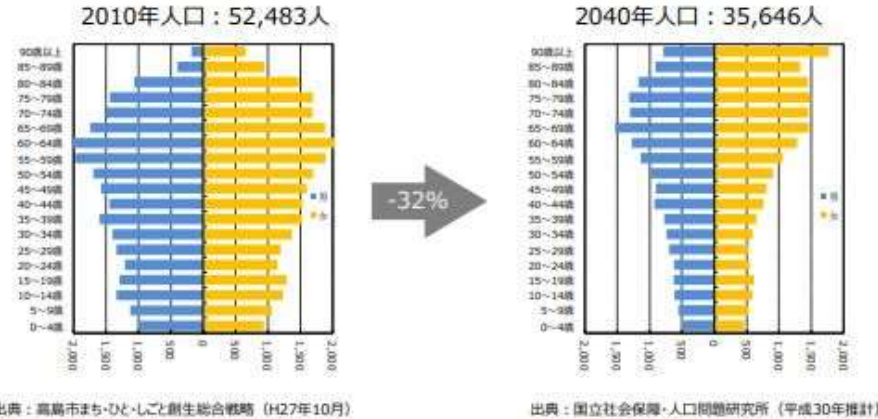


○ 滋賀県高島市では、市民参加型のワークショップ「第3期高島市まちづくり推進会議」を開催し、市の将来社会像を実現するために解決すべき地域課題について議論している。

取組名	第3期高島市まちづくり推進会議
実施主体	高島市
議論するメンバー	高島市まちづくり推進会議委員、地域住民
実施日時	「第1回全体会議」令和元年8月3日（土） 13：30～15：30 ※全体会議後、各テーマごとにグループ会議を実施（第2回全体会議はコロナウイルス拡大の影響で延期）
開催概要	<p>高島市は、市民参加型のワークショップ「高島市まちづくり推進会議」において、高島市の将来像（2040年）を定量的に評価し、その結果を基に具体的な取組（市民のできること、行政のできること）をしている。</p> <p>第1部 第2期高島市まちづくり推進会議で作成した高島市の将来像について、高島市まちづくり推進会議委員による説明 「高島市まちづくり推進会議」では、地域が本来持っている地域資源（自然、人、伝統文化、つながり）を最大限活かして、豊かさを実感できる社会を目指している。</p> <p>第2部 グループディスカッション （議論のテーマ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のバス交通のあり方：地域や社会全体での検討が必要なバス交通のあり方について、運営見直しのための参考となる提案を目指す。 ・地域とのつながりを生み出すための地域行事：地域や人のつながりを育む『祭』や『地域行事』の実践を目指す。 <p>（市民が望む2040年の高島の将来の交通の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者輸送タクシーサービスがある ・ 友人や観光客など市外の人が高島に来る機会が多いので、電車の本数が増えており、道路も整備されている ・ 歩くことを重視し、歩いて見えてくるものや（電車を）待つ時間を人と交流したりして楽しむ（歩くので、健康増進にもつながる） ・ 電気バス、電気ステーションもある ・ 土砂災害のない道が基本であり、国道が拡張されている ・ コミュニティバスに○回乗ったら地元商店の買物○割引など、地元を活性化させる仕組みがある（ふるさと納税の財源で補てん） ・ 湖西線が便利になり、道も整備され、「高島来てよ」が言いやすい ・ 都会で稼ぎ高島で生活！
取組の効果（目的、結果の活用）	地域振興のための方策を市民・地域・行政が共に問題意識を持ち、検討しながら、市民協働によるまちづくりを実践・推進する。
実施の際の留意点	<p>第2期高島市まちづくり推進会議が作成した「高島市の将来社会像」を、第3期高島市まちづくり推進会議委員や市民へ伝えるに当たっては、「高島市の将来像」が、単に理想を語っているのではなく、以下のような制作過程があって作られたものであるということ、また今後つづく高島市まちづくり推進会議の共通目標であることを念頭において活動してもらえよう留意して提示した。</p> <p>（制作過程）“望む将来像を考える”とし、高島市の現状把握と将来像の対象年である2040年の人口予測や市を取り巻く外部環境の変化について確認を行い、これらのことを前提条件として、テーマ別に“望む高島市の将来社会像”の要素と実現に必要なことを市民委員に議論していただいた。</p>
取組のポイント	本活動を通して、市民のネットワークが広がり、まちづくりに参加する市民が広がることをめざしている。

参考URL) <http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1566980998230/index.html>

○ 滋賀県高島市における住民等との意見交換における配布資料(抜粋)と活用された指標は次のとおり。



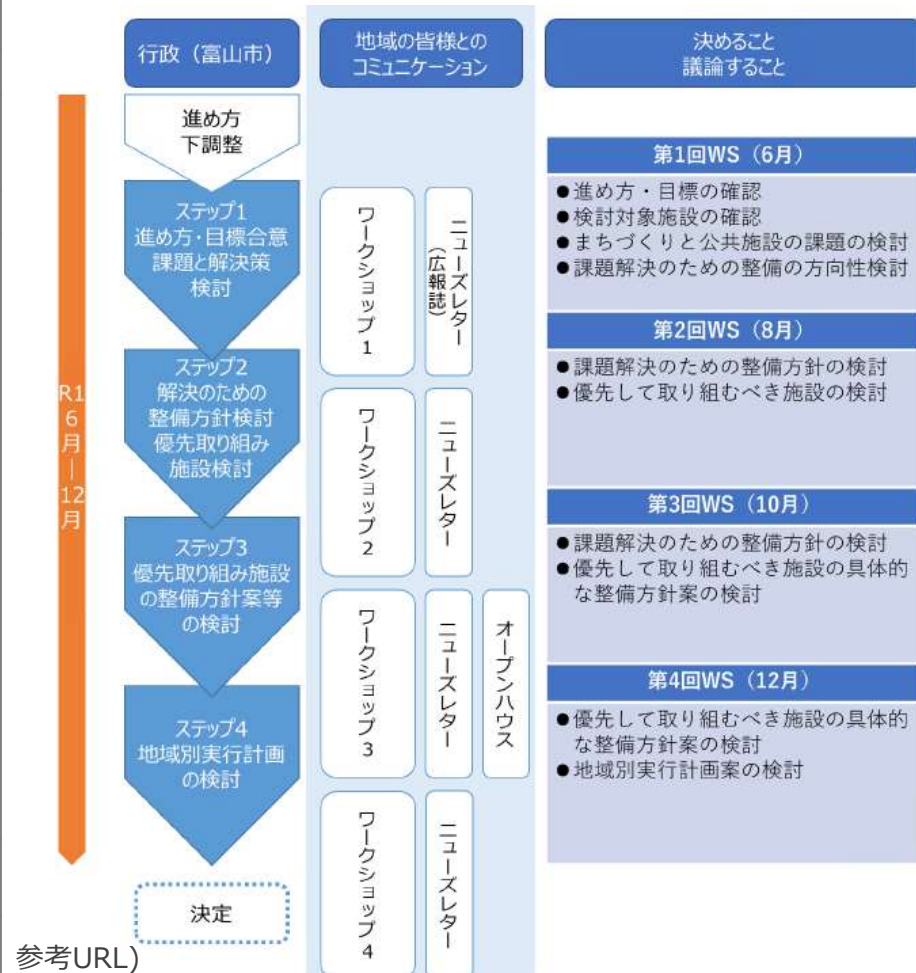
活用された指標	指標の出典
将来人口	<ul style="list-style-type: none"> 国立社会保障・人口問題研究所（平成30年推計） ※将来推計に関するデータ
2011年のバス停の場所とバス路線を2050年の高島市の将来人口地図（社人研）に重ねた地図	<ul style="list-style-type: none"> 高島市資料 国立社会保障・人口問題研究所（平成30年推計） ※将来推計に関するデータ
各地域の区・自治会人口構成と高齢化率の一覧表	<ul style="list-style-type: none"> 市保有データ
寿命の内訳（2010年）高齢者サロンなどの位置（2016年）	<ul style="list-style-type: none"> 健康日本21（第二次）、市区町村別生命表の概況 たかしま市民協働交流センター ※将来推計でない
土砂災害警戒区域	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省国土政策局「国土数値情報（土砂災害警戒区域、土砂災害・雪崩メッシュデータ、浸水想定区域、避難施設）2013年」 ※将来推計でない
気候変動	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動適応情報プラットフォーム：斜面崩壊発生確率（S8データ、MIROC5、RCP8.5、21世紀半ば） ※将来推計でない

「地域の未来予測」の活用・住民対話の事例②

資料5

- 富山県富山市では、平成28年度に今後40年間の公共施設等の整備・管理運営等の基本方針となる「富山市公共施設等総合管理計画」を、平成29年度に具体的な行動計画となる「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」を策定。同プランでは、市内の14地域において地域別実行計画を策定することとしており、策定において、地域の実情や住民の意見を反映させるため、住民参加のワークショップを順次開催。

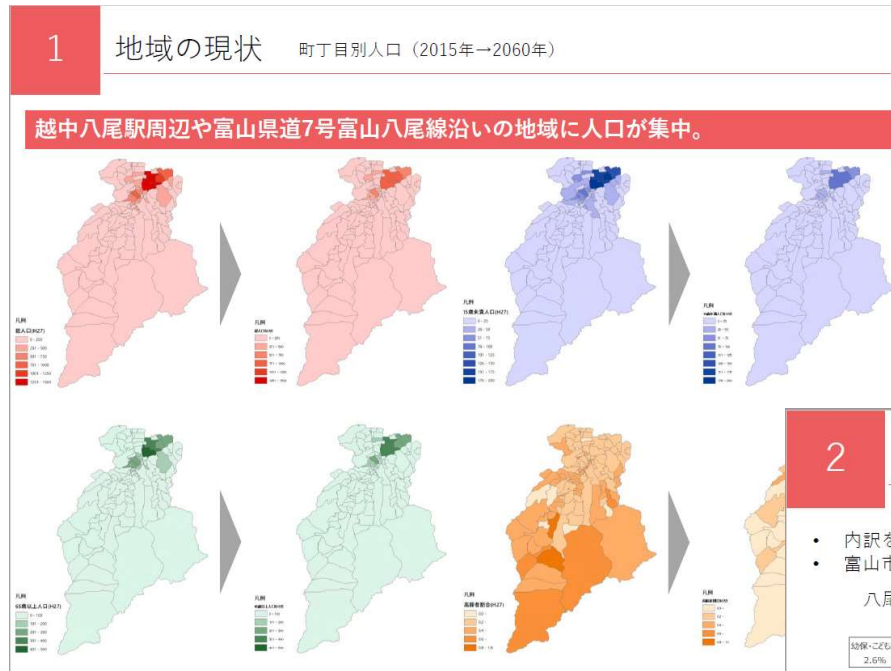
取組名	八尾地域まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ
実施主体	富山市
議論するメンバー	ファシリテーター（オフィスキュア篠田氏、（有）まち処計画室小口氏、NPO法人柏崎まちづくりネットあいさ桑田氏、水戸部氏、増田氏）、地域住民
実施日時	令和元年6月30日（日）13：30～16：30
開催概要	<p>富山市は、住民の参加するワークショップを開催し、地域の課題を踏まえ、再整備の方向性について議論してもらい、その結果を「地域別行動計画」に反映させている。</p> <p>第1部 事務局（富山市）から説明 ・富山市の現状と公共施設マネジメントの取組について ・ワークショップについて ・八尾地域のまちづくりと公共施設について ・本日の検討内容について ①「地域別実行計画」の策定に向けた検討の進め方やワークショップの進め方 ②地域のまちづくりや公共施設についての課題 ③課題を解決するための公共施設の再編・維持のあり方</p> <p>第2部 グループ討議・発表（以下、得られた意見の例） ・八尾美術保存館や八尾化石資料館は現在、休止中や期間を限定して閉館している。人に見てもらうためにも人の集まる場所へ移転するのが良いのではないかと。 ・八尾地域は人口の割に施設が多い。施設が多いことで維持費がかかるので、老朽化した施設は安全面も考慮してなくすことも検討した方が良いのではないかと。</p>
取組の効果（目的、結果の活用）	ワークショップで出された住民からの意見等に基づき、地域別実行計画を策定することにより、同時に住民合意を図っている。
実施の際の留意点	年齢構成や性別、職業等にも配慮し、地域の利害・関心を持っていると思われるステイクホルダーを漏れなくメンバーに抽出すること。
取組のポイント	計画策定の早い段階から市民参画の導入を図り、透明性・客観性を高め、公益性と市民の利害の調整を図っていること。



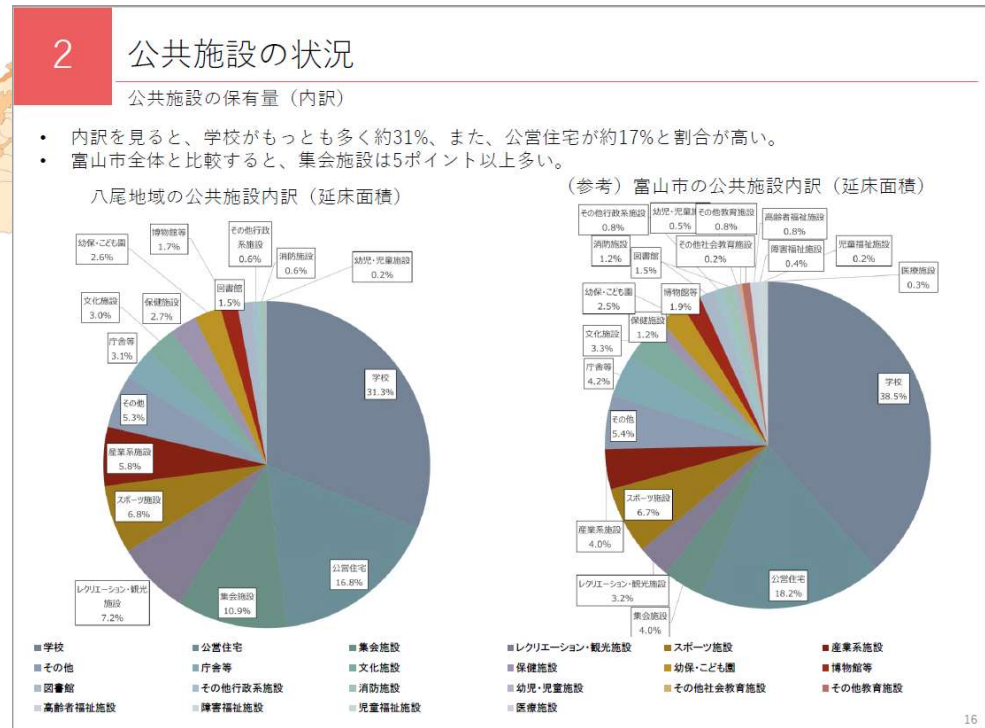
参考URL)

https://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyoseikeieika/sougoukanrikeikaku/workshop_yatsuo_hosoirinaiyou_2.html

○ 富山県富山市における住民等との意見交換における配布資料(抜粋)と活用された指標は次のとおり。



活用された指標	指標の出典
将来人口 (地域全体、町丁目別。総人口、15歳未満、65歳以上、高齢者割合)	<ul style="list-style-type: none"> 人口推計はコーホート要因法を用いて算出 ※将来推計に関するデータ
公共施設の保有量	<ul style="list-style-type: none"> 市町村保有データ ※将来推計でない
公共施設の整備年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村保有データ ※将来推計でない



○ 神奈川県鎌倉市では、公共施設再編の取組に関する認識を共有するとともに、再編計画の検討における課題やアイデアを把握するため、住民参加のワークショップを開催。

取組名	公共施設再編計画市民ワークショップ
実施主体	鎌倉市
議論するメンバー	地域住民
実施日時	平成26年6月21日(土)13:30~17:00 6月28日(土)13:30~17:00
開催概要	<p>鎌倉市は、住民の参加するワークショップを開催し、再編計画について説明した後、公共施設と行政サービスを付箋に書き分けて、再配置のシミュレーションを実施。</p> <p>1日目 第1部 再編計画について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市の取組経緯と基本方針等 ・ミニ講座（東洋大学客員教授 南学氏による公共施設再編に係る講演） ・グループ討議（サービスと施設について考えよう） <p>第2部 公共施設シミュレーション①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール（進め方）説明 ・グループ討議 ・中間発表 <p>2日目 公共施設シミュレーション②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議・発表 ・全体意見交換 <p>（2日間を通して得られた意見の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のプールは施設廃止し、民間施設を利用する ・子育て、教育、高齢者施設を集約する
取組の効果（目的、結果の活用）	公共施設再編の取組に関する認識共有と再編計画の検討における課題やアイデアの把握が目的
実施の際の留意点	公共施設再編の理念や取組への理解を深めるため、単に施設を統廃合するのではなく、公共施設の建物とサービスを切り離し、必要なサービスを維持しつつ、施設再編のシミュレーションを進めること
取組のポイント	公共施設再編の概念や取組を、再編シミュレーションを通して体感的に把握できる。

■再編内容（鎌倉地域）



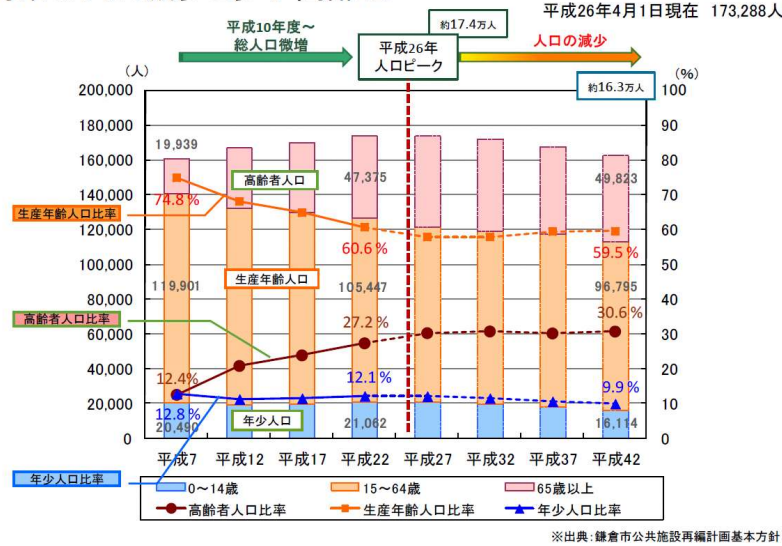
2班 コンセプト『資産はスリムに。付帯付加価値サービスは民活活用。』

再編の考え方
 ・駅周辺利用地を民活利用で有効活用（表裏には起立整備、回響利用地活用）
 ・高付加価値文化施設に収益施設化、学校の新築化
 ・昼間民活の空と施設を活用する（物と人活用）
 ・国電線はネットワイク化分散

施設	削減		売却	利用料金改定・民間委託		サービス向上 (譲渡らじど)
	カード	理由		カード	理由	
カード						
理由						
ポイント						
1日目						
2日目						
合計		1,600 / 3,170		60 / 2,210	930	410
					2,800	1,300 (譲渡)

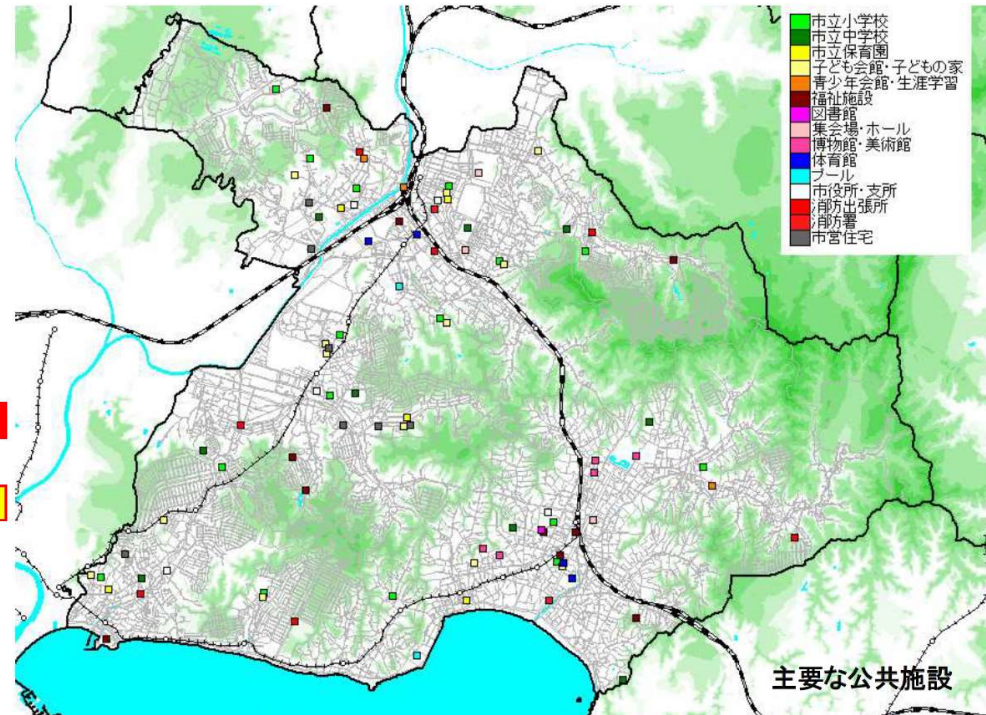
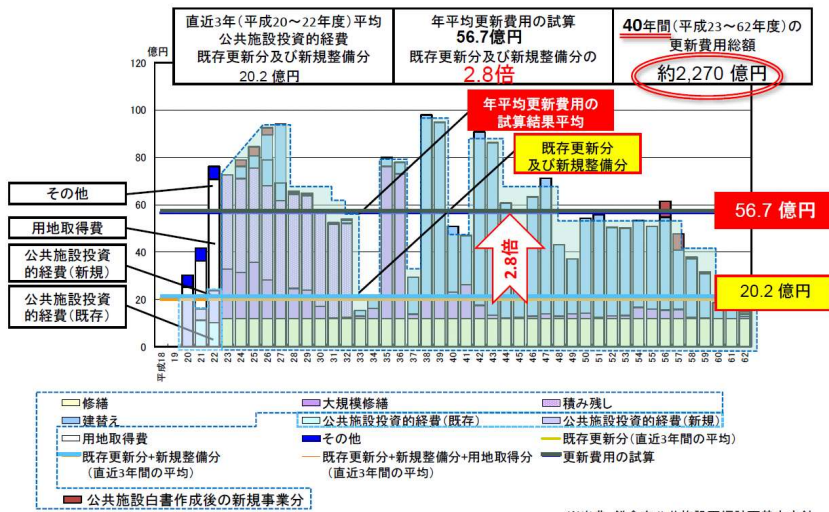
○ 神奈川県鎌倉市における住民等との意見交換における配布資料(抜粋)と活用された指標は次のとおり。

①将来の人口減少と少子高齢化



活用された指標	指標の出典
将来人口 (年少人口、生産年齢人口、高齢者人口)	<ul style="list-style-type: none"> 人口推計はコーホート要因法を用いて算出 ※将来推計に関するデータ
公共施設の整備年	<ul style="list-style-type: none"> 市保有データ ※将来推計でない
公共建築の更新費用の将来負担予測	<ul style="list-style-type: none"> 「鎌倉市公共施設再編計画基本方針」 ※将来推計に関するデータ

③公共建築の更新費用の将来負担予測

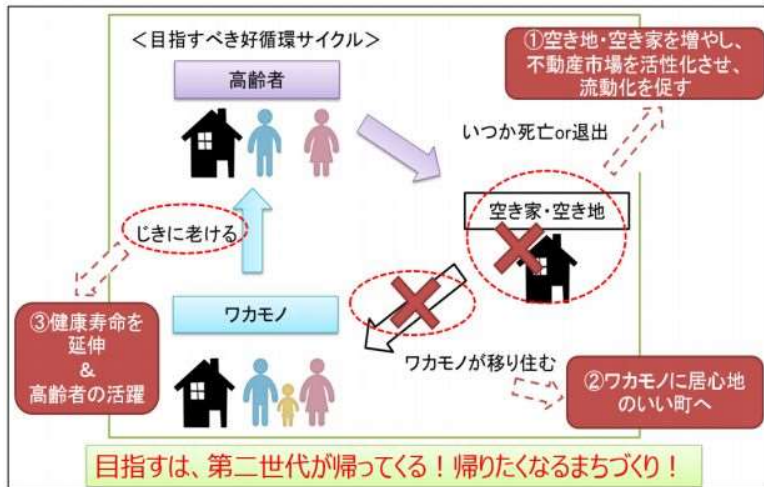
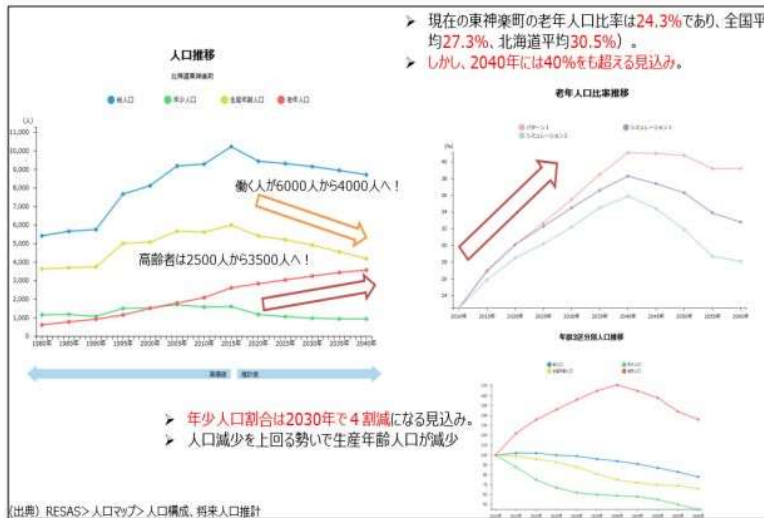


- 北海道東神楽町では、地域経済分析システム（RESAS：リーサス）の活用により現状分析を行い、地域課題に立ち向かう為の方向性について、地域関係者や町民を交え意見交換を実施している。

取組名	政策立案ワークショップ（「北の子ども王国・東神楽町」の高齢化対策と産業振興策）
実施主体	主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進室、経済産業省北海道経済産業局 共催：北海道東神楽町
議論するメンバー	東神楽町山本町長、木村副町長、同町職員、観光協会、商工会、農協、大学、金融機関等
実施日時	平成30年10月30日（火）14:00～16:40
開催概要	<p>東神楽町は、懸念される人口減少、高齢化などの問題について、データ分析と今後のあり方を提示した上で、地域の産学官金の関係者と住民も交えて、今後の東神楽町における政策のあり方について意見交換を実施。</p> <p>第1部 リーサス等を活用したデータ分析と今後の政策のあり方を東神楽町が提示（東神楽町・有識者（中央大学・細野助博氏））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、東神楽町は高齢者割合が全道・全国平均と比較して低い。しかし、今後、その割合が上昇し、高齢者支援が増加して、若者支援が手薄な町（若者に優しくない町）になるおそれがある。 ・ 東神楽町は空き地・空き家が少なく、人の退出や新規参入という循環サイクルの硬直化が起きやすい。若者（第二世代）が流入・還流できる環境と文化づくりが大切である。 ・ 今後の政策のあり方として次の案が考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 不動産市場の流通円滑化：空き地・空き家を増やし、不動産市場を活性化させる 2. ワカモノを呼び込む文化醸成：ワカモノという希少な資源の奪い合いの時代が到来する中、ワカモノに居心地のいい町へ 3. 「健康の町づくり」の強力な推進と高齢者活躍の場づくり <p>第2部 意見交換（以下、得られた意見の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内では、子どもの頃から東神楽の魅力を頭に植え付ける取組（東神楽ファンづくり）が必要である。 ・ 町外には、旭川空港が自然災害に強いという点を今以上にアピールし、乗降客を増やすとともに、その受け皿（道の駅や創業支援による企業立地）を整備することで、人々の還流につなげていくべき。 ・ 行政と民間の協働とともに、その役割分担（東神楽町単体、広域連携、異業種・異年齢間連携など）が重要であり、町内で検討・チャレンジしていく文化醸成と、その対外PRも大切である。
取組の効果（目的、結果の活用）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東神楽町は、直近40年間、人口増加及び子どもの割合が道内で1位（15年連続）であるが、将来的に高齢化が進むことを見据え、今のうちからデータに基づいて政策を検討しておく必要があるため。 ・ 今後、意見交換での主な意見を東神楽町の政策に反映させる狙い（※具体的な施策にまでは至っていない）
実施の際の留意点	RESASを活用した推計結果の生数字を見せることにより、全国で人口減少が進んでいる中、これまで40年間人口が増加し続けた本町であるが、今後は例外ではなく減少局面に移行するという現実をまずは知ってもらった。
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民と一緒に地域課題について、意見交換をしている。 ・ 簡易に活用できるオープンデータベース（RESAS）をベースに、国の統計資料等を活用して現状分析を行っている。

参考URL) <https://contest.resas-portal.go.jp/2020/>

○ 北海道東神楽町における住民等との意見交換における配布資料(抜粋)と活用された指標は次のとおり。



活用された指標	出典
目的別歳出決算額	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月27日財政制度等審議会財務省提出資料(抜粋) (総務省ホームページ) ※将来推計でない
滞在人口	<ul style="list-style-type: none"> 労働力調査結果 (総務省統計局) ※将来推計でない
将来人口 (総人口、年少人口、生産年齢人口、老年人口) ※RESASを活用	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年社人研推計」 ※将来推計に関するデータ
経済規模	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業連関表 (環境省) 地域経済計算 (環境省) ※将来推計でない
農業の構造 農業者分析 農産物販売金額	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県別農業産出額及び生産農業所得、市町村別農業産出額 (農林水産省) ※将来推計でない
企業数 全産業の構造	<ul style="list-style-type: none"> 経済センサス-基礎調査 (総務省) 経済センサス-活動調査 (総務省、経済産業省) 企業概要データベース (株式会社帝国データバンク) 企業間取引データ (株式会社帝国データバンク) ※将来推計でない
商業の構造	<ul style="list-style-type: none"> 商業統計調査 (経済産業省) 経済センサス-活動調査 (総務省、経済産業省) ※将来推計でない
生産分析	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業連関表 (環境省) 地域経済計算 (環境省) ※将来推計でない
滞在人口率 Frim-to分析 目的地分析	<ul style="list-style-type: none"> モバイル空間統計 (株式会社NTTドコモ) TrueData (株式会社TrueData) 経路検索条件データ (株式会社ナビタイムジャパン) ※将来推計でない